

日本語専攻

🌐 日本語専攻では、外国語を身につけ、外国の事情を知った上で日本語・日本文化を客観的に捉えることに興味のある人、日本語教育に深い関心のある人、外国語を基礎にグローバルな観点から日本を世界に発信する意欲のある人を求めています。

日本語を母語として日常的に使っているみなさんの中には、「外国語学部で日本語を学ぶとはどういうことなのか？」という疑問を抱く人も少なからずいるのではないのでしょうか。しかし、ふだん何気なく使っている日本語の中にも、よく考えてみると不思議なナゾがたくさんあります。例えば日本語を学んでいる外国人から、『バス停に止まる』と『バス停で止まる』の違いは何かとか、「どうして感謝する時に『すみません』と言うのか』などと聞かれたら、どのように答えればいいのでしょうか。

このような問いに答えるには、母語である日本語を外から見つめ直し、他の言語と比べながら考える必要があります。日本語専攻では、日本語学・言語学・日本語教育学・日本文化学の領域にわたって、日本語を外国語のように観察して客観的に見る目を養い、幅広い視野から日本語・日本文化を捉えることのできる人材の育成を目指しています。日本語専攻の学生はそれぞれ、24の言語のうち一つを専攻言語として学ぶことになっています（*）。外国語を学んだ上で日本語を深く探求できるのは、外国語学部の日本語専攻だからこそできる最大のメリットです。また、日本語専攻には毎年10名の留學生が入学して、日本人学生と共に学んでいるので、教室の中でも日常的に多言語・多文化環境が実現されています。さらに、日本語教育に関心のある人には、教育実習の目的を兼ねた海外派遣や交換留学の機会も設けています。

外国語を身につけて日本を世界に向けて発信したい・日本と世界との交流を通じて社会に貢献したい・外国語の言語能力を活かして日本語教育の現場で活躍したいなど、グローバルな視点に立って日本語と関わり合いたいと願うみなさんにぜひ来ていただきたいと思えます。

（*）専攻言語について

日本人学生については下記の24専攻言語の中から一つ。なお、外国人留學生については日本語。

<専攻言語>

中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、デンマーク語、スウェーデン語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語

学生の声



3年 村上 のぞみ

どの言語にするか決められない、そこの受験生！最も多くの言語に触れられるチャンスがあるのは、どの専攻だと思いますか？答えは、まさかまさかの“日本語”専攻なんです！私たちは、24言語の中から専攻言語を選んで勉強しています。様々な言語を学ぶ仲間が同じ専攻内にいるなんて、とってもわくわくしませんか？日本語専攻はまさに、世界の縮図といえます。

海外に行きたいのに、日本語専攻なんて…と思っている、そこの受験生！日本語専攻には、学部時代から世界で活躍する人が数多くいます。学生として留学するのではなく、日本語教師として海外の高校や大学で働くことができます！日本語学習者がいる国であれば、世界各国どこへでも行くことができます。行った先の言葉が話せなくても大丈夫！日本語で日本語を教えるからです。たとえば、私の友人は専攻言語がポルトガル語ですが、今はタイの高校で日本語の授業のティーチングアシスタントをしています。でも、日本語を全く知らない人に、どうやって日本語だけで日本語を教えるのでしょうか。その方法を知りたくありませんか？日本語専攻に入れば、夢も可能性も無限大に広がっていきます。

まだやりたいことが見つからない、人生にもっとトキメキが欲しい、そこの受験生！まずはオープンキャンパスで日本語専攻をのぞいてみてください。そこには今まで見たことも、経験したこともない世界が広がっています。



タイのサトリウウィッターヤ2高校で卒業生と

留学体験記



4年 茶園 直人

私は2016年5月から12月までミャンマーのマンダレーにある日本語学校に講師として勤務しました。私が勤務する以前にも何人もの先輩方が勤務していた学校で、私も先輩の紹介で働かせていただくことになりました。海外で教壇に立つてみると、教えていると同時に数多くのことを教わっていることに気づきます。教師として海外に行くということは、留学とは全く異なる次元のことなのだと思います。もちろん、現地語を学び、その語学力を生かして異文化理解に努めることもとても大切なことです。実際、日本語専攻には留学している人もたくさんいます。しかし私は日本語を教えることを通じてミャンマーと関わり、相互理解を深めていくことで大きく成長できました。そして、日本語教育は人と人、国と国をつなげるることのできる仕事なのだと感じました。そのため、私は今後も良き日本語教師を目指して努力を続けていこうと思います。

しかし、私は初めから日本語教師になりたかったわけではありません。入学前はまさか自分が日本語教師を志すとは思っていませんでした。ただ面白そうという理由で入学した日本語専攻でしたが、ここで過ごしたことによって、自分の本当にやりたいことを見つけることができました。もし日本語や日本文化について、そして日本語教育について興味がある人がいたら、私は日本語専攻をお勧めします。

